

まえがき

最近のわが国はブラジルブーム。新首都ブラジリアや、リオ、サンパウロ、ベロ・オリゾンテといった南東部の大都市、またベレン、マナウスなどアマゾンの諸都市を訪れる日本人も多く、日伯親善が大いに促進されているのは、まことに喜ばしい限りである。

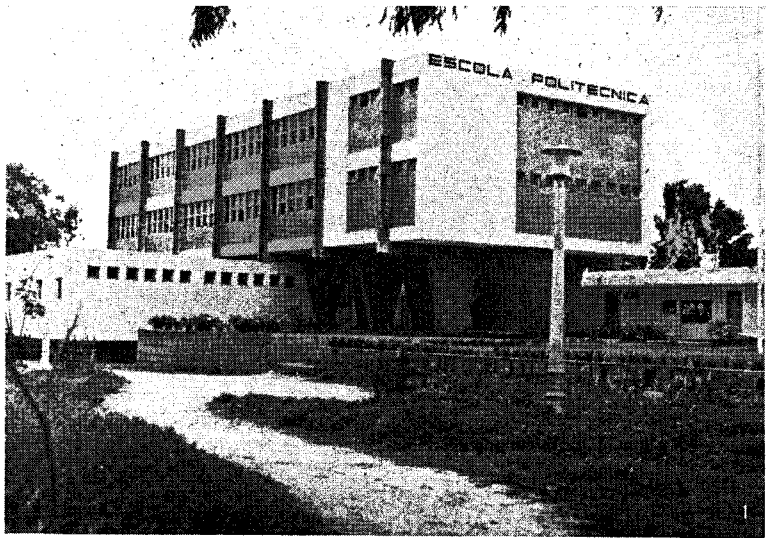
ところで、ポルトガルの植民地としてもっとも早く開け、オートロ・ブラジル（ブラジルの中の別のブラジル）と呼ばれて、独得の社会と文化を形成している東北ブラジル（ノルデステ）は、どうしたわけか日本人にはあまり関心を持たれていない所ようである。——本当のブラジルを知りたければノルデステに行けとまでいわれているのに——

筆者は、わが国の開発途上国に対する海外技術協力の一環として、ノルデステに派遣され、国立パライバ大学の大学院で交通計画を講義するかたわら、ノルデステ開発計画にも参画する機会を得たが、いままで名前も知らなかったレシフェに向けて羽田を飛び立ったのは、昭和47年7月1日のことであった。

開発途上国という言葉からくる暗いイメージを抱いて、はるばる地球の裏側までやってきた私をあわてさせたのは、人口100万のレシフェは、ノルデステの政治・経済・文化の中心で、セントロ（都心）には摩天楼が熱帯の明るい青空をバックにそびえ立ち、南アメリカのベニスと呼ばれるにふさわしい“水の都”であるということを知ったときである。

大学町カンピナグランデは人口20万で、ブラジル人にいわせると、レシフェからわずか230kmしか離れていない。

地平線の彼方まで広がるサトウキビ島やヤシの林、その中をまっすぐに伸びる国道101号線、ジョアン・ペンソアの町で左折して、国道230号線を内陸に向かって西進



すると、周辺の景色はトウモロコシ（ミーリョ）の畠と牧草地に点在する牛の群にかわる。私をふたたびあわてさせたのは、行き交う車もほとんどなく、人間の手があまり加わっていないなまの自然が、はてしもなく続くということであった。

やがて夜のとばりがおけると、宝石をちりばめたような星空に、南十字星を眺めて感傷にひたっている余裕などまったくなく、心細さが身にしみる。こんな所で車が故障したらどうしよう。——ようやく暗やみの中に浮ぶカンピナグランデの灯を見つけたとき、それは“100万ドルの夜景”よりも価値ある輝きにみえた。

かくして、カンピナグランデを生活の根拠地として、暇をみつけては、見聞を広めるため各地に旅行したが、以下にその印象を記してみたい。

なにぶん紙数に制限があることゆえ、ブラジルの紹介といっても、どうしてもノルデステを中心とした記述になってしまうので、あらかじめお断りしておきたい。

ノルデステとアミーゴ社会

ノルデステは、南米大陸の東部、南緯2.5度から18度の間に位置し、9州1連邦直轄領から成っている。面積は154.6万km²で日本の約4.2倍、ブラジル全土の

18.16%にあたる。

海岸線に沿い幅 60~100 km の帯状地帯は、湿潤地帯 (Zona da Mata) と呼ばれ、砂糖・綿花・サイザル麻・カカオ・天然ゴム等の栽培が盛んで、ノルデステの中で経済的にもっとも発達した所である。海岸線より 80~150 km の地帯は、灌木林地帯 (Zona da Agreste) と呼ばれており、さらに内陸部には有棘植物のみの半乾燥地帯 (Zona do Sertão) が広がっている。内陸部はしばしば大かんばつに見舞われ、これが歴史的にノルデステの社会経済発展に大きな障害となっている。

海岸地帯は高温多雨の熱帯圏内にあるが、年中貿易風が吹いているので割合にしのご易い。内陸部は大陸の気候で雨が少なく、朝星晩の気温の変化がはげしい。かんまんな四季の変化になれた日本人にとって、この急激な気温の変化は、慣れるのに若干の日時を必要とするであろう。

ノルデステの人口は 1970 年に 2730 万で、ブラジル全人口の約 30% を占めている。人口増加率は 2.2~2.4% と高い。また、文盲率は 51% といわれている。

ノルデステ（東北ブラジル人）は、初期植民地時代に入植したポルトガル人と、先住民族インディオおよび西アフリカからの黒人の雑婚によって生じたといわれているが、ほとんどが敬虔なカトリック教徒で、温和で、楽天的で、人情こまやかで、妥協的である。

カンピナグランデに赴任して間もないころは、仕事（トラバリーヨ）の話をするアマニアン（明日に）、翌日もまたアマニアンでのれんに腕押し。いささか困惑し切っていたが、いつとはなしにわれわれにも数多くのブラジル人のアミーゴ（友人）ができた。不思議なことに、仕事の話もアミーゴを通じてたのめば解決が早い。

ところで、底抜けに陽気なアミーゴたちとの食事ほど楽しいものはない。フェジョアード（フェジョン豆とぶた肉のごった煮）、シュラスコ（パーベキュー）、ブシアード（牛の胃袋につめた臓物料理）をはじめ、ノルデステ近海の大産物とれる新鮮なラゴスタ（伊勢えび）、カマロン（車えび）、カラングイジョ（かに）など料理の品数も豊富。ブイニョ（ぶどう酒）を飲んで談笑しながら、健康家の彼らは豪華なブラジル料理を次々に上げていく。食事に十二分の時間をとってあとは休養（デイスカンサ）。

その彼等が待ちに待っているのがカルナバル（カーニバル）、早速アミーゴ社会は思い思いに仮装して連れ立ってクルーベに。サンバの強烈なリズム、踊り狂うアミ

ーゴたちでクルーベは熱気むんむん。朝 5 時東の空が白んでくるところにこの踊りの饗宴第 1 日目は幕。さあデイスカンサ——今夜の第二幕にそなえて——。

このような家族ぐるみの肌と肌とのつき合いは、たしかに相互の信頼感を増し、心のゆとりを持った豊かな社会を形成しているようである。カンピナグランデのあるパライバ州はパライズオ（パラダイス）だといってやったら、アミーゴたちは大喜びであった。

大規模プロジェクトと素朴な住民

ノルデステは水道の発達が遅れているため慢性的な水不足に悩まされ、しばしば断水する。このため、各家庭では屋上にタンクをつくって水道の水をためておき、断水にそなえている。

昨年 10 月から私たちの住んでいるアパートの増築工事が始まった。困ったことに職人たちはレンガを積み上げるセメントを練るのに貴重なタンクの水を無断で使ってしまうし、タンクの水で汚れた体を洗って帰る始末である。これには妻もかんかんに怒って、アパートの管理人に厳重に抗議した。「アパートの増築工事に合せて、屋上にもっともっと大きなタンクをつくるので、そうしたら水の問題はいっさい片付いてしまう」と管理人は大きな身ぶりを入れて説明する。不思議なことにブラジル人たちはこの言葉を聞いて、「タァ」といって了解してしまう。「そんなことをいったって、今日の水に困るじゃないか」といきまいてるのはジャポネースのみ。しまいには、アパートの住人までが管理人と同じことをいって私たちを説得する始末。素朴というか、大まかというか、私たちにほとんど理解できないことであった。

同じ問題で私を狼狽させたのが、サンパウロのジャバクアラとサンタナを結ぶ地下鉄工事。都心部のリベルダーデ通りではオープンカット工法が採用され、地上交通をすべてシャットアウトして工事が進められている。このため、アベニダの両側の商店（ロージャ）はほとんど閉店休業。なかには破産にひんしている者もいるとか。そこで、これらの住民の何人かに聞き込みを行ってみた。返事はきまって、「地下鉄が建設されれば都市が発展し、それがわれわれの利益増加に還元される。それまでの辛棒」。これを聞いて、あなたがらブラジルは軍政だからとか、住民が無知だからときめつけてしまうわけにはいかないだろう。むしろ、その底にひそむラテン哲学と、住民の豊かな相互信頼感、その上に立った計画者の強い責任感に注目したい。

ゴイアスの大荒原に建設された幾何学的な首都ブラジリアを訪れた日本人たちのブラジリア批判はあまりかんばしくない。ルシア・コスタのジェット機型のタウン・プランニングとゾーニングはあまりにも人工的で画然としすぎており、ニーマイヤーの建築群は、都市というより月面基地のようであり、まったく人間味が感じられないとさんざんである。しかし、ブラジリアはいくらでも改良の余地はあるし、現に新しい都市技術を入れて日に日に修正が行われている。

同じく 19 世紀にミナス・ジェライススの荒野に建設されたペロ・オリゾンテは現在人口 140 万の町に発展し、人間味あふれる町として、皆が市民であることに誇りを持っているということを考え合せれば、1 世紀というスケールで巨大なプロジェクトを実行に移していくブラジル人の物の考え方にこそ注目したい。

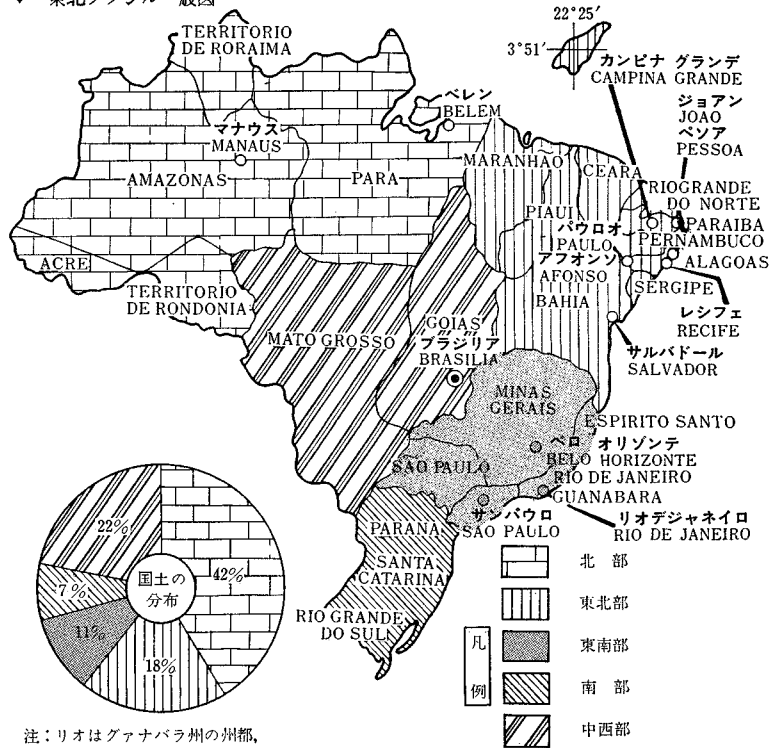
新首都ブラジリアの建設という偉業とひきかえに、長期にわたってインフレに苦しんだブラジル経済も、メディシ政府の経済政策が効を奏して、1971 年の経済成長率は 11.6% と世界のトップクラスにランクされるまでになった。35 億ドルの輸出目標も達成され、外貨準備も 20 億ドルと安定してきている。

メディシ政府は 1972 年から 74 年までの 3 か年計画として、第一次全国開発計画を発表したが、その最重点施策の一つが輸出回廊計画である。ブラジル政府の要請により、昨年 9 月運輸省の竹内良夫氏を団長とする調査団が日本政府から派遣され、精力的な調査活動を通してその方向づけを行った。

輸出回廊計画は、外貨獲得をねらって、ブラジル中南部の諸州から 1976 年に約 1100 万 t の農産物を輸出するため 30~35 億クルゼイロ (1350~1575 億円) を投



▼ 東北ブラジル一般図



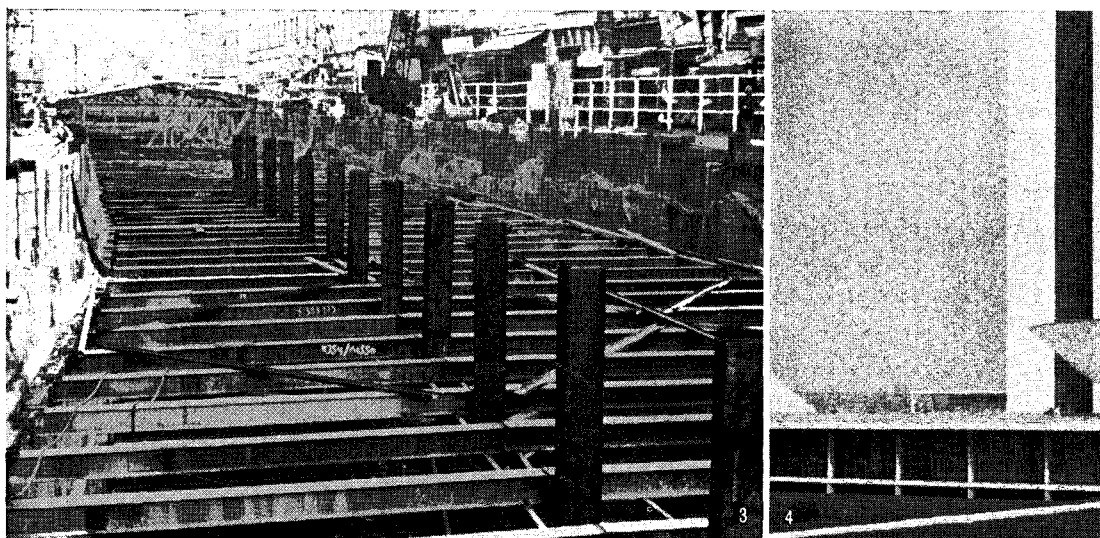
注：リオはグアナバラ州の州都、
リオデジャネイロ州の州都はニテロイ。

写真-1 (前ページ) ノルデステの明日を築く技術の殿堂エスコラ・ポリテクニカ。

写真-2 勢揃いしてクルーベへ——カルナバルの記念撮影。

じて、その輸送に必要な鉄道・港湾・貯蔵施設などを整備しようというものである。

この計画を実現するため、わが国の経済技術協力に対する期待は大きい、協力の実をあげるためには、ラテ



ンの哲学に根ざしたブラジル人の発想を十分理解してかかる必要がある。

トランスアマゾニカへの国民の期待

ジョアン・ペソアを起点に私たちの住むカンピナグランドを経て西へ延びる国道 230 号線、同じくレシフェを起点として内陸に延びる国道 232 号線、これら 2 本の国道はピアウイ州パトスで合流して 1 本の道路となり、内陸部セルトン地帯まで延びている。この国道の別名こそ音に聞こえたトランスアマゾニカ（アマゾン横断道路）。

この国道（エストラーダ・デ・ホダジェム）をさらに西に延ばし、アマゾンの大密林を抜けてペルー領に入り、ブカルパを経て、リマまでの建設が計画されている。完成すれば全長 5 500 km。ノルデステノ というのは。その距離はリスボンからモスクワに達すると。日本流に翻訳すれば、東京—ハワイ間の距離に近い大道路である。

トランスアマゾニカはパライバおよびペルナンブコ両州の部分はすっかり舗装されていて、快適なドライブが楽しめる。日曜日には、ブラジルの国産車フォルクスワーゲンを駆って郊外にドライブとしゃれこむが、何しろ道路の両側は、はてしなく続くまの自然で、ゆくてを遮るものもなし。思わずアクセルに力が入ってしまう。速度計の針が 110 km/h を指して、びりびり震えているのに気づいて、はっとするといった具合である。

一方、アマゾンに入って高度 1 万 m から見るトランスアマゾニカは、緑のじゅうたんを敷きつめたような大密林の広がりの中の細い 1 本の線にすぎない。だが、ブラジル特有のテラ・ロッサ（赤い土）のために、飛行機の窓からはくっきりと映えてみえる。マハバーイタイチュバ間 250 km はジャングルを幅約 100 m に切り開い

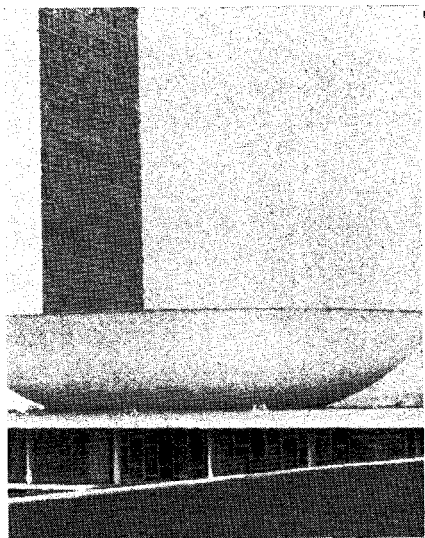
ただで舗装もされず、エストラーダ・デ・ホダジェムと呼ぶには、あまりにもお粗末すぎる。しかし、直径 2~3 m の樹木が密生し、人間の進入をかたくなにこぼんできた大密林を切り開くだけでも、いかに困難であったかは容易に想像できる。作業員たちは、マラリヤや毒蛇や密林の動物に悩まされ続けているし、この建設には軍隊までもが動員されている。しかし、このエストラーダがブラジルの将来を決定づける第一歩になると国民の期待は大きい。

1970 年、ノルデステの大かんばつの惨状を現地視察したメディシ大統領は、トランスアマゾニカの建設により、人口稠密で雨量の少ないノルデステ内陸部セルトン地帯の農民を大量に、人口希薄で多雨なアマゾンの森林地帯へ移動させ、アマゾン地域の開発を促進しようとしている。現にアルタミラの周辺には約 8 000 人の移民が入植し、政府から一世帯 250 アールケレ（約 675 ha）の森林と、マッチ箱のような家と、無利子の貸付金 500 クルゼイロ（22 500 円）が与えられ、米・トウモロコシなどの栽培や木工品の製作に従事していると伝えられている。また、金・スズ・銅・マンガン・石油などのあらゆる地下資源が、アマゾンの規模の量で眠っているといわれるが、トランスアマゾニカが、その開発のかぎを握ることになるだけに、完成への期待も大きい。

ノルデステに灯をともし

遠くミナス・ジェライスに源を発してノルデステを縦貫し大西洋にそそぐサンフランシスコ河は、アマゾン河に次ぐブラジル第二の大河で、全長は 3 161 km、流域面積は 67 万 km² に及んでいる。

河口をさかのぼること 310 km、パウロ・アフォンソの大瀑布は天下の景勝として知られているが、いまここ



で、とても大きくて大きな水力発電所(ウジナ)の建設が進められている。

CHE-SF(サンフランシ

スコ水力発電株式会社——連邦政府が株式の51%を出資——の門を入ると、ブラジル国旗と社旗にならんで7本のバンディラが風にひるがえっている。これらは、セアラ、リオグランデ・ド・ノルテ、パライバ、ペルナンブコ、アラゴアス、セルジッペおよびバイアの州旗で、送電先のノルデステの各州を示している。

手入れが行き届いた敷地内は色とりどりの花が咲きみだれ、「はてな、間違って植物園にきてしまったのかな」と錯覚してしまったが、ウジナはそんなところにあった。岩をくり抜いた地下のウジナでは、日本、アメリカ合衆国、ドイツの発電機がうなりをあげている。わが国

の代表選手は日立製だ。ここでの発電量は72.6万kWというからすごい。

現在のウジナのうしろでは、第三期工事として、ダムの水門(バファジェム)および新しいウジナが来年の完工をめざして建設中である。第三期工事が終了すると発電量は120.6万kWにはねあがる——わが国最大の黒部第四発電所(25万kW)の規模に比較していただきたい——。

これだけで驚くのはまだ早い。第三期工事に引続いて第四期工事の着工が待っているからだ。第四期工事まで入れると、アースダムの延長は3225mにおよび、貯水量は10億 m^3 、発電量は450万kWに達するという。

輝やかしいノルデステの明日を夢みながら、5000人の若い技術者達が、もくもくと働いていた。

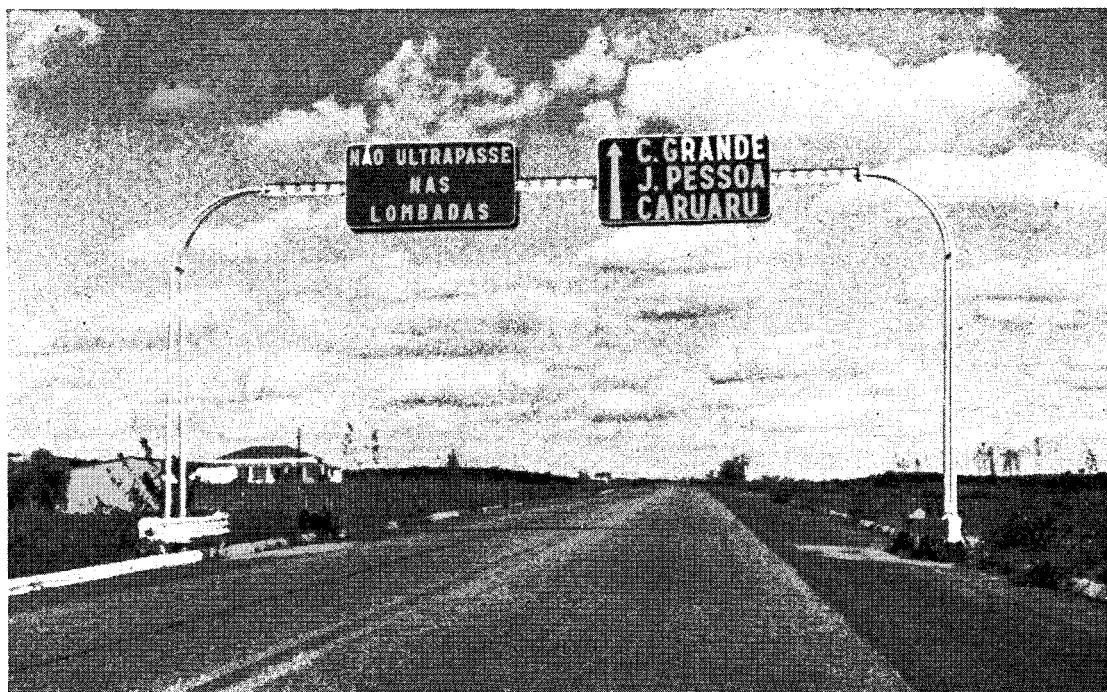
SUDENE(スデネ)の役割

ノルデステの知識人たちからよく北海道のことを尋ねられる。熱帯のノルデステと雪の北海道では、どうも取合せが、よくわからない。札幌オリンピックが彼らの関

写真-3 オープンカット工法で建設の進むサンパウロの地下鉄工事。

写真-4 ブラジリアのシンボル国会議事堂。

写真-5 ノルデステ内陸部セルトン地帯にのびるトランス・アマゾンカ。



東北ブラジルノート——交通・通信——

道 路

- ① 東北ブラジル開発のためのインフラストラクチュアとして、連邦政府、各州政府とも道路整備に力を注いでいる。
- ② 幹線道路
 - ㉓ BR-101 号線：リオグランデ・ド・ノルテ州のナターールを起点とし、東北ブラジルの各州都を結んで大西洋岸に沿って南下し、リオグランデ・ド・スウル州に至る(全長 4 114 km)。
 - ㉔ BR-116 号線：セララ州フォルタレーザを起点とし内陸部を南下し、ペルナンブコ州サルゲイロ、パイア州フェイラ・デ・サンターナを通り、リオグランデ・ド・スウル州に至る(全長 4 477 km)。
 - ㉕ 海岸沿いの各州都より、それぞれ内陸部に向う横断国道がある。
 - ㉖ これらを中心に州、郡道が縦横に走っている。
- ③ 主要国道の舗装はほぼ完了している。
- ④ 1969 年現在の道路延長は

国 道	1.7 万 km
州 道	3.7 万 km
郡 道	15.4 万 km
- ⑤ 1968 年現在の自動車登録台数は 21 万台、うち乗用車 7.4 万台で対全国比 8% である。
- ⑥ トランス・アマゾニカは、レシフェおよびジョアンペン

ブを起点とし、ピアウイ州パトスで合流して 1 本となりアマゾンへ向うが、パライパおよびペルナンブコ両州の部分は舗装済みである。

鉄 道

- ① 各州都を起点として、内陸部の一次産品生産地帯および州都間を結んでいる。
- ② サンフランシスコ河に鉄橋がないため中南ブラジルに通ずる直通路線はない。
- ③ 国内自動車道路の発達により、鉄道は輸送手段としては二義的である。線路保守も十分でなく、車両の装備には老朽化が目立つ。
- ④ 連邦政府機関である鉄道公社(RFF)傘下のアセレンセ鉄道、ノルデステ鉄道およびレステ・ブラジレイロ連邦鉄道の 3 社によって経営が行われている。
- ⑤ 1969 年現在、全長は 6 541 km であり、パイア州の一部が電化されているほかはディーゼル機関車を使用している。
- ⑥ サンフランシスコ河口プロブリアとポルト・レアル・ド・コレジオ付近に大鉄橋が建設された。

港湾・海運・水運

- ① 主要港湾の現況は次のとおりである。
 - ㉗ レシフェ港：岸壁延長 3 052 m、水深 8~10 m、クレーン 55 基(1.5~2.0 t)、天井クレーン 41 基(1.5 t)、倉庫 26 棟(65 699m²)、冷凍倉庫 3 棟(4 017 t 能力)、サイロ 34 棟(19 103 t 能力)、燃料タンク 57 棟(117 837 m³)。1969 年の取扱貨物量は 230 万 t、出入港船舶数は 1 158 隻

写真-6 アマゾンの大密林にいどむトランス・アマゾニカ建設工事。

写真-7 アマゾンの大密林を切り開いたトランス・アマゾニカ。



隻。

- ⑥ サルバドール港：岸壁延長 1 480 m、水深 2.5～10 m、クレーン 29 基 (1.5～3.0 t)、天井クレーン 20 基 (2 t)、倉庫 10 棟 (20 930 m²)、冷凍倉庫 1 棟 (475 t 能力)、サイロ 3 棟 (10 590 t 能力)、燃料タンク 22 棟 (46 706 m³)。

1969 年の取扱貨物量は 66 万 t、出入港船舶数は 906 隻。

- ⑦ フォルタレーザ港：岸壁全長 956 m、水深 3～8 m、クレーン 5 基、倉庫 2 棟 (12 000 m²)。

1969 年の取扱貨物量は 93 万 t、出入港船舶数は 706 隻。

- ⑧ その他、原油積出しのセルジッペ州アラカジュ港 (取扱貨物量 150 万 t)、粗糖積出しのアラゴアス州マセイオ港 (取扱貨物量 65 万 t)、カカオ積出しのバイア州イレウス港 (取扱貨物量 25 万 t)、棉花・パイナップル積出しのパライバ州カベディオ港 (取扱貨物量 27 万 t) 等の諸港がある。

- ⑨ 東北ブラジル管内にはブラジル第二の大河であるサンフランシスコ河 (全長 3 161 km、流域面積 67 万 km²) があり水運を発達させている。ただし、河口から 310 km の地点にパウアフォンソ大瀑布があり、大西洋への航行をさまたげている。

- ⑩ ジュアゼイロ河港：バイア州、取扱貨物量 3.6 万 t。
⑪ ペトロリーナ河港：ペルナンブコ州、取扱貨物量 2 000 t。
⑫ サンタ・マリア・デ・ピットリア河港：バイア州、取扱貨物量 7 000 t。

- ⑬ バイア州ではアラッー工業港の建設がオランダの会社によって進められている。

航 空

- ① 主要空港としてレシフェ、サルバドール、フォルタレーザがある。
② レシフェは国際空港として、ポルトガル航空が乗り入れている。また、VARIG も欧州線の発着基地に使用している。
③ SST 時代にそなえて、リオ国際空港の支援基地として、レシフェかサルバドールのいずれかに SST 用空港を建設する案が検討中である。

通 信

- ① 1970 年にミナス・ジェライス州ベロオリゾンテとサルバドール-レシフェ-フォルタレーザを結ぶ東北ブラジルマイクローウェーブ幹線が完成し、内外通信事情は著しく改善された。
② 国内主要都市間の一部は直通となった。
③ テレビの全国同時中継番組も出現した。
④ 各州都における電話増設も活発に行われているが、需要を満すにはほど遠い現状である。
⑤ テレックス業務はレシフェ、サルバドール、フォルタレーザの 3 市で行われている。



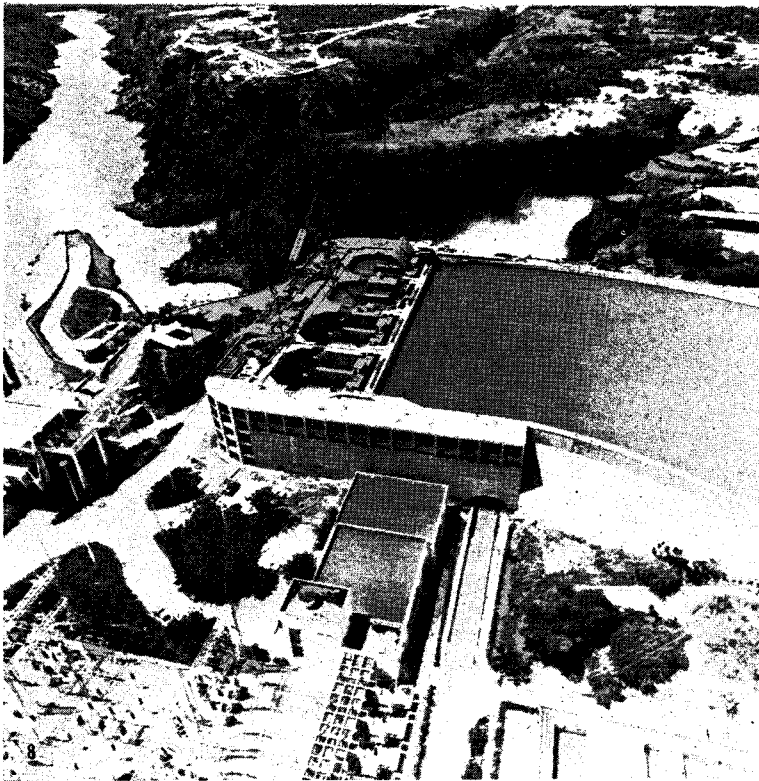
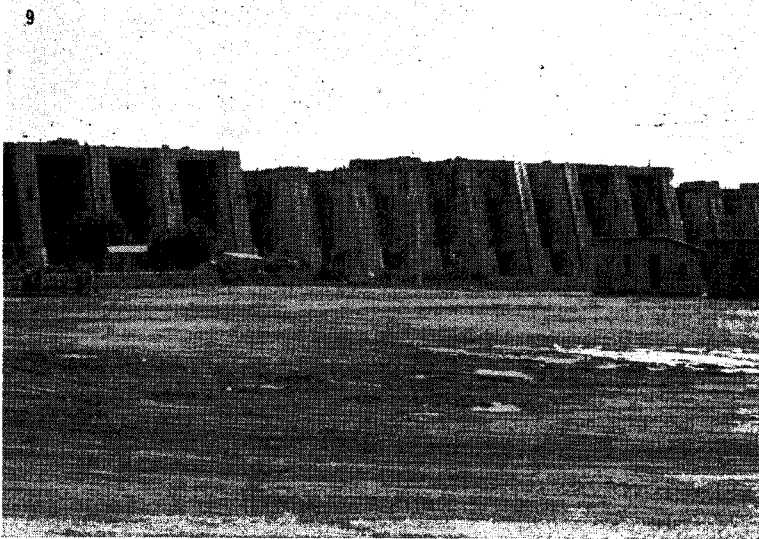


写真-8 第一期工事で完成したパウロ
アフォンソの火力発電所。

写真-9 パウロアフォンソに建設中の
ダムの水門——第三期拡張工
事。



画推進してきた。その計画は、農業振興、工業振興、天然資源開発、インフラストラクチャーの整備、教育の振興ときめ細かく分かれている。また SUDENE は、34/18 条資金と呼ばれる税制上の優遇策を導入するなど、ノルデステの離陸に真剣である。

ブラジル最初の首都であった歴史の町サルバドルは、現在パイアの州都として人口 100 万を有する近代都市に発展しているが、その郊外には SUDENE によって誘致された、れんが色の工場（ファブリカ）が、パルケ・イ・ドストリアル^{Parque Industrial}の緑に映えている。

このような光景は、レシフェ、フォルタレーザ、ナタール、ジョアン・ペソア、カンピナグランデと、どの町の郊外にも見られる新しいノルデステ発展の象徴である。

また SUDENE は、ノルデステの農業をかんばつから守って安定的な収穫を確保するため、かんがい工事（イリガソン）にも大変な力の入れようである。

かくして、自然のままのなまのノルデステは、人間のノルデステへと徐々にそのシステムをととのえつつある。

心呼び起したのかと早合点したが、実はさにあらず。北海道への関心は、SUDENE（東北開発庁）の役割と北海道開発局の役割が似ているところからきているようである。

ノルデステの後進性と貧困を打破し、豊かな人間社会の創造をめざして、連邦政府は 1959 年 12 月、レシフェに SUDENE を設立し、優秀な若手の人材を大量に送り込んで、今日までに四次にわたる開発指導計画を企

巨大な人口、巨大な土地、巨大な資源というスケール・メリットのうえに、20 年先、30 年先のノルデステを描いてみると、そこには詩人ホセ・ロドが“アングロ・アメリカ”に対して称揚してやまなかった“イベリア・アメリカ”の 21 世紀に雄飛した姿が浮んでくるのではなからうか。ビーバ・ノルデステ!!

●次回は「フィリピン」の予定●